

地域ぐるみで土着天敵を活用する害虫防除

(独)農研機構、(独)農業環境技術研究所、秋田県果樹試験場、福島県農業総合センター果樹研究所、千葉県農林総合研究センター、静岡県農林技術研究所、奈良県農業総合センター総合技術支援センター、高知県農業技術センター、岡山大学、宮崎大学

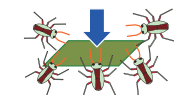
気候の変動による農業害虫の大発生や新たな害虫の発生に対し、農地とその周辺を含む農業環境に土着天敵を維持させ、害虫密度を抑制する技術を開発しています。土着天敵が有効に働くためには、地域として天敵類を維持できる環境を整備することが必要です。

1 水田地域での取り組み

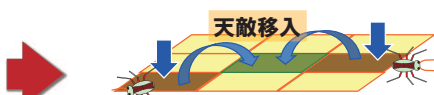
点の管理(ほ場単位) から 面的管理(集落単位)へ

ほ場単位の害虫防除

広域的植生管理:天敵温存、害虫発生源縮小

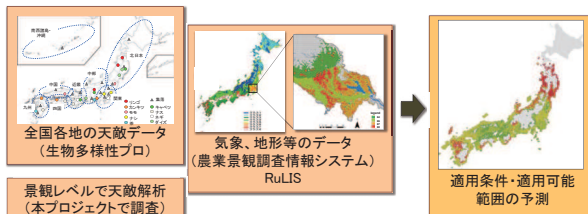


周辺で増えた害虫を
ほ場で迎え撃つ
「本丸決戦」
・防除コスト・労力大



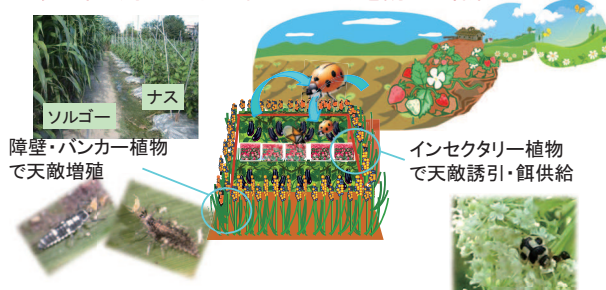
「戦線拡大」による本丸防衛
・地域の休耕田、畦畔、法面等の植生管理
・温存された天敵が移入して害虫防除
・害虫の発生源となる植物を減らす

開発した防除システムを他地域で使えるシステムに



2 野菜栽培地域での取り組み

ほ場外縁・周辺の植生管理で天敵を誘引・増殖



地域で協力して土着天敵利用



3 土着天敵を活用するための個別技術開発

○ ナスのヒメハナカメムシの利用技術



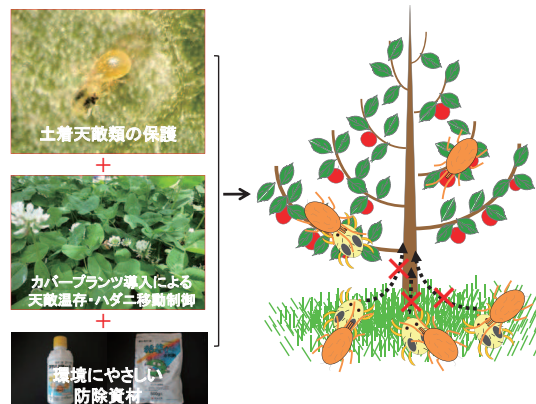
マリーゴールドやオクラなどを植栽し、天敵に影響の少ない選択殺虫剤も使い、アザミウマ類、コナジラミ類に対してヒメハナカメムシ類を活用する栽培技術

○ ネギの土着天敵利用技術



ムギ間作などの植生管理に加え、防除体系を見直し、アザミウマ類に対する土着天敵類を活用する栽培技術

○ 果樹の土着天敵利用技術



クローバー植栽など下草管理と天敵類に影響の少ない殺虫剤を用いて、ハダニに対するカブリダニなどの天敵を活用する栽培技術